

冠句

小森和美 選
田中二天
西村吟雪

特選 値が上がる 買わずに帰るこの辛さ

大藪町 千葉 春胤

(評) 米5キロ四千元。一万円で買える米12キロ、半月分。やりくり母さんも万策尽きる値段です。

特選 値が上がる 生きねばならぬしぼる知恵

田附町 大谷 みつ子

(評) 世の中に物があふれ豊かになった気がしていたのに、泡が弾けて、心の貧乏に気付く。工夫して生きるとは豊かな生活なのだ。

特選 一昔 日記ときどき暴れ文字

長曾根南町 高 恵三郎

(評) 感情に押し流されてペンを持つ手もつい疎かになり、習慣付いてる日記も文字が乱れがちに。若い頃はとかく冷静さを欠いたものである。読み返すと情けなくなる。落ち着こう。

入選 一昔 ダイヤル回わす黒電話

長浜市 野口 成人

(評) 世は日進月歩の情報通信革命。一分一秒を誰よりも早く争う日々の活し。あの重くてでかい緩やかに戻るダイヤル、ツウツウと音がなつかしい。現在では待ちきれない。でも通話は出来るそうです。

入選 焦がれ行く 野球に夢を追う求め

米原市 成宮 義雄

(評) この人はどのチームに入つたのだろうかと想像を掻き立てます。ベンチ入りしなくても、背番号が貰えなくても、きつと青春の思い出は美しいものとなつて残つてい我想います。

入選 一昔 母が鶴折る薬包紙

新海町 木村 美波

(評) お医者様から処方される薬が粉薬で、看護婦(※さんが紙で包んでいた時代は遠い昔になりました。腹痛でも風邪でも、いつも同じ胃散が処方されるのによく効く。でも、母が隣で鶴を折っているとは、少し心配です。(※ 時代背景を考慮した表現による)

入選 焦がれ行く 次よ先輩オクラホマ

犬上郡豊郷町 伊香 とし子

(評) 青空の下、握った手の温もりが忘れられない。ドキドキする胸の高鳴り、良き青春時代の淡い初恋が甦る。どうか曲が終らない様に念じつつ待ったあの日の思い出が。

入選 一昔

対面レジで和やかに

普光寺町 河合仙治

(評)

店と客が互いに声かけ合い、人と人との対話。今では買物とは何か、レジの画面を相手に支払い、それもカードで済ます。確かに早いし合理的ですが、何か物足りない一抹のさびしさを味わっています。



佳作 値が上がる

半片ずつの焼さんま

愛知郡愛荘町 西村芳子

佳作 一昔

孫と手繋ぐ爺の居て

地蔵町 佐古徳子

佳作 値が上がる

軌道を正す民の声

東近江市 村上 定

佳作 一昔

アツという間に皺が増え

犬上郡甲良町 上野初子

佳作 一昔

少年達の夢の跡

稲里町 覇流不良者

佳作 一昔

張り合う自我の古き恋

宇尾町 金森光男

佳作 焦がれ行く

住み慣れた町老いて尚

蒲生郡竜王町 苗村厚子

佳作 一昔

子らが巣立って広き部屋

大藪町 外村輝夫

佳作 一 昔 子孫の晴れに苗木植え

犬上郡豊郷町 伊 香 信 章

佳作 一 昔 額の傷は今は笑み

正法寺町 菅 野 哲 郎

《総評》

彦根市民文芸冠句投句者の皆様、こんにちは。

今年度は、小森和美先生と田中二天先生とで選をさせていただきました。今年度は昨年度より投句者が減少しました。これも後期高齢化に伴い、他の短詩文芸にも見られます。

投句は減りましたが内容は濃く甲乙つけがたく、三名頭をひねりながら選をさせていただきました。特に「値が上がる」の題に対し投句の多くが、当世の米価を詠んでおられるように思います。

高齢化と申せど頭の体操に次年度も多くの句を詠まれます様お祈りいたしております。

西 村 吟 雪

選者吟

焦がれ行く 晩花詩泉の歩はゆるり

小 森 和 美

値が上がる 選良の弁空を切る

田 中 二 天

一 昔 スマホ無くても生活出来

西 村 吟 雪